

## 外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/10/01

### 米国が主役の相場展開か

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	追加利下げ観測が一段と後退するか 予想レンジ: 86.50 ~ 94.60 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	2014年の利上げ開始が視野に 予想レンジ: 77.80 ~ 85.00 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↘	インフレ動向に注目 予想レンジ: 8.80 ~ 10.30 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



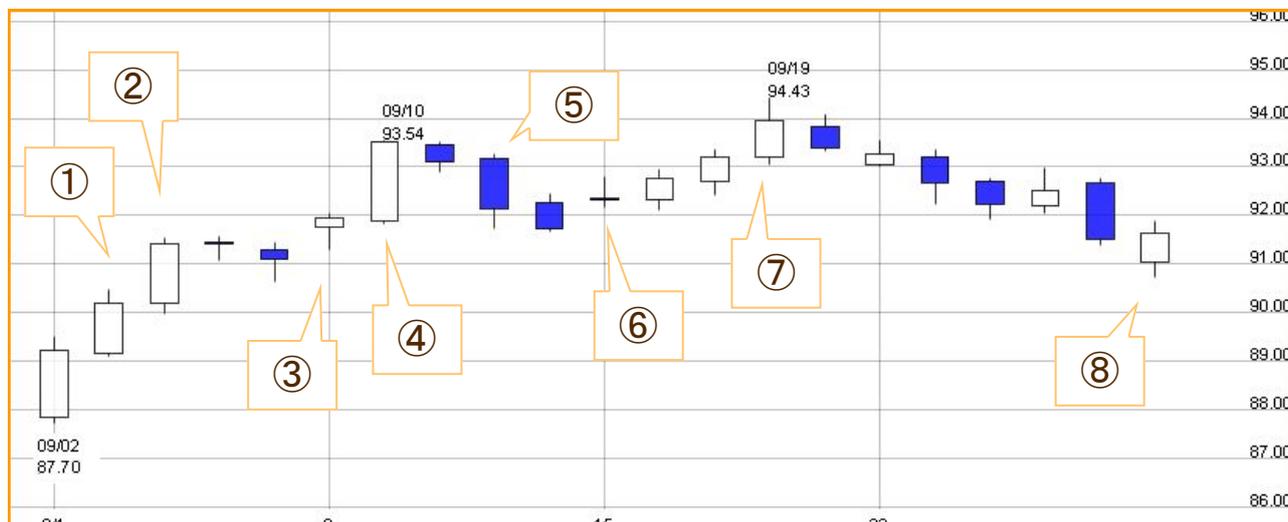
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD / JPY

## 豪ドル/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	87.85円	94.43円	87.70円	91.65円



①

3日、中国8月非製造業PMIが前月を下回った他、豪7月小売売上高が前月比+0.1%、豪第2四半期経常収支が94億豪ドルの赤字(予想:+0.4%、85億豪ドルの赤字)と予想より弱い結果が伝わると、豪ドル/円は89.10円まで下落。ただ、豪準備銀行(RBA)の声明文では前月に続き「一段の緩和余地がある可能性」との文言が盛り込まれなかった他、「金融政策は引き続き適切と判断」「過去の緩和の効果が今後さらに出てくる見通し」などが伝えられると、豪ドルを買い戻す動きが優勢となった。

②

4日、豪第2四半期国内総生産(GDP)が前期比+0.6%、前年比+2.6%と予想(+0.5%、+2.4%)を上回った事を好感して、豪ドル/円は上昇。その後は米株高を好感して91.54円まで一段高となった。

③

9日、前週7日に2020年五輪開催地が東京に決定した事を受け、本邦株高期待により92.03円まで上昇した。同じく前週7日の豪総選挙で野党保守連合が大勝した事も追い風となった。

④

10日、中国8月の鉱工業生産や小売売上高が予想を上回った他、甘利経済再生相の「首相が9月末を目処に経済政策のパッケージ取りまとめを指示」との発言を受け円が売られた。「シリアのムアラム外相の見解として『シリアは化学兵器を国際社会の管理下に置くとのロシアの提案を受け入れる』」との一部報道により同国情勢に対する懸念が後退した事も重なり、豪ドル/円は93.54円まで上昇。

⑤

12日、豪8月失業率が市場予想通り5.8%となるも、雇用者数変化が1.08万人減、労働参加率は65.0%といずれも予想(1.00万人増、65.2%)外の弱い結果となった。これを嫌気して豪ドル/円は1円超急落。その後は本邦株安を嫌気したドル/円の下げもあり、91円台へと一段安となった。

⑥

16日、早朝にローレンス・サマーズ氏が米連邦準備制度理事会(FRB)の次期議長候補を辞退したことが報じられると、ドルが全面的に下落。豪ドル/円は豪ドル/米ドルの上昇の影響をより強く受けて92.40円台まで上昇した。

⑦

19日、前日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での予想外の量的緩和縮小見送りを受けてNYダウ平均株価が史上最高値を更新した流れを引き継ぎ、アジアや欧州で株高が進んだ。予想より強い米経済指標の発表が相次いだ事を受けてドル/円が上昇すると、豪ドル/円は94.43円まで一段高となった。

⑧

30日、米財政協議の難航により一部米政府機関の閉鎖が現実味を帯びた他、中国9月HSBC製造業PMIが市場予想を下回った事が嫌気され、豪ドル/円は一時90.73円まで下落。ただ、その後は米長期金利の上昇を受けてドル/円が値を上げたのに連れて、豪ドル/円は91.88円まで値を上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

9月の豪ドル/円相場は87.70円～94.43円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.9%の上昇(豪ドル高・円安)となった。豪州国内ではRBAによる利下げ観測の後退や政権交代、国外では中国経済の持ち直し観測、シリア情勢の懸念後退や米FOMCでの量的緩和縮小見送りを好感した株高を受け、約3か月ぶり高値を記録。ただ、その後は一部米政府機関の閉鎖懸念を受けたリスク回避ムードにより上げ幅を縮小した。

今月は米財政問題がポイントとなろう。日本時間1日昼時点では、予算協議の行き詰まりにより米政府機関が一部閉鎖されているが、閉鎖が一時的であれば市場への影響は限定的と見る。ただし、長期化する場合はGDPの押し下げ要因となって株価が下落し、結果豪ドル/円相場を下押す事も考えられる。また、今月17日が期限とされる債務上限引き上げ交渉の行方について、前回(2012年末)は期限が迫る中で交渉の難航が伝えられるとリスク回避ムードとなって豪ドル/円の上値を抑えたが、「財政の崖」回避で合意するとリスクオンムードとなって豪ドル/円は上昇したことから、交渉の経過を注視したい。

一方、豪州では足下の追加利下げ観測が後退する中、RBAの次の一手を読む上で、国内では9月雇用統計や第2四半期消費者物価、国外では中国第2四半期GDPが手掛かり材料となろう。RBAが懸念する雇用やインフレ率、中国経済に持ち直しの動きが確認できれば、豪ドル/円は先月上抜けに失敗した200日移動平均線(本稿執筆時点では94.59円)突破を試す機運が高まる事も考えられる。

その他、国内外の投資家の信任を得られるか注目されるアベノミクスの内容なども、豪ドル/円相場を動かす手掛かり材料となろう。(川畑) (予想レンジ:86.50～94.60円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

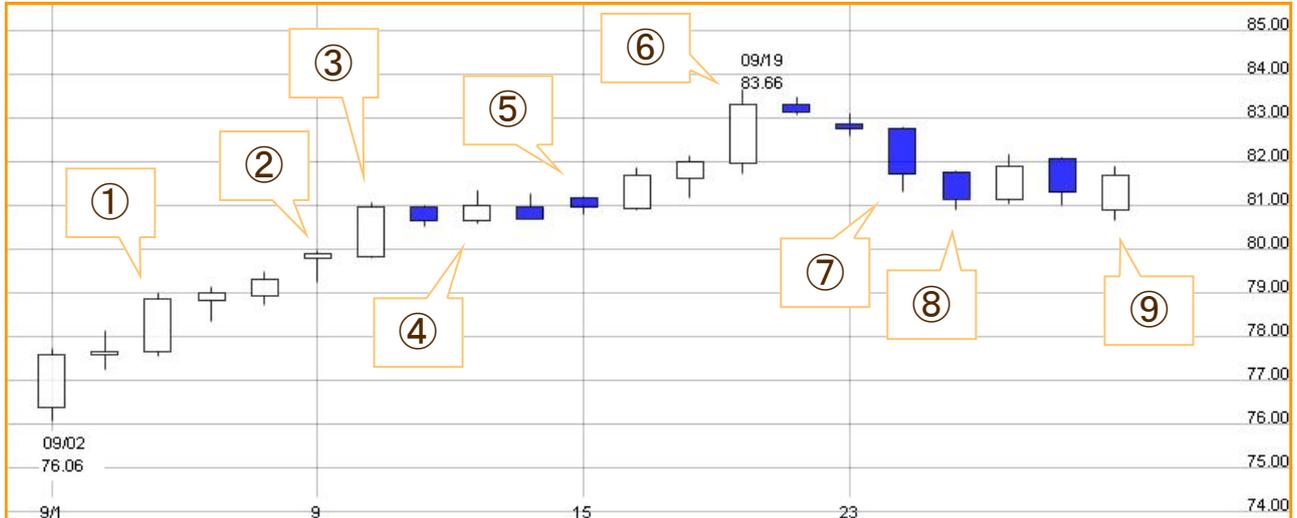
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(火)	日銀短観	10/10(木)	9月豪雇用統計
	9月中国製造業PMI	10/11(金)	9月米小売売上高
	8月豪小売売上高		10月シガン大消費者信頼感指数・速報値
	RBAキャシュターゲット	10/12(土)	9月中国貿易収支
	9月米ISM製造業景況指数	10/14(月)	9月中国消費者物価指数
10/2(水)	8月豪貿易収支	10/15(火)	RBA議事録
	8月豪住宅建設許可件数	10/16(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)
	9月米ADP全国雇用者数	10/18(金)	第3四半期中国GDP
10/3(木)	9月中国非製造業PMI		9月中国鉱工業生産
	9月米ISM非製造業景況指数	10/23(水)	第3四半期豪消費者物価
10/4(金)	日銀金融政策決定会合(3日～発表)	10/24(木)	10月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	9月米雇用統計	10/30(水)	米FOMC政策金利発表
10/9(水)	FOMC議事録(9月17・18日)	10/31(木)	日銀金融政策決定会合

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# NZD / JPY

## NZドル/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	76.36円	83.66円	76.06円	81.67円



- ① 4日、主要国での株高を受けてNZドル/円は堅調に推移。中国8月HSBCサービス業PMIが前月を上回った事も追い風となった。
- ② 9日、前週7日に2020年五輪開催地が東京に決定した事を受け、本邦株高期待によりNZドル/円は取引開始直後に79.95円まで値を上げた。
- ③ 10日、中国8月の鉱工業生産や小売売上高が予想を上回った他、甘利経済再生相の「首相が9月末を目処に経済政策のパッケージ取りまとめを指示」との発言を受け、円が売られた。シリアのムアレム外相の見解として『シリアは化学兵器を国際社会の管理下に置く』とのロシアの提案を受け入れる」との一部報道により同国情勢に対する懸念が後退した事も重なり、NZドル/円は81.08円まで大きく上昇した。
- ④ 12日、NZ準備銀行(RBNZ)が政策金利の据え置きを発表。ただ、ウィーラー総裁が声明で「来年利上げが必要になる可能性が強いのだろう」との見解を示したため、NZドル/円は取引開始直後に60銭近く急騰。ただその後は本邦株安を受けたドル/円の下げや、同総裁の「過大評価されたNZドルは問題」との発言により急騰前の水準に押し戻されるなど、値動きの荒い展開となった。
- ⑤ 16日、早朝にローレンス・サマーズ氏が米連邦準備制度理事会(FRB)の次期議長候補を辞退したことが報じられると、ドルが全面的に下落。NZドル/円はNZドル/米ドルの上昇の影響をより強く受け、取引開始直後に前週終値から約50銭上昇した。
- ⑥ 19日、前日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での予想外の量的緩和縮小見送りを受けてNYダウ平均株価が史上最高値を更新した流れを引き継ぎ、アジアや欧州で株高が進んだ。予想より強い米経済指標が相次いだ事を受けてドル/円が上昇すると、NZドル/円は83.66円まで一段高となった。
- ⑦ 24日、NZ乳製品大手フォンテラが「(農家に対する)乳固形分の支払価格を1kg当り0.50NZドル引き上げて8.30ドルとする」と発表した事を受け、NZドル/円は約30銭値を上げる場面が見られた。
- ⑧ 25日、NZ8月貿易収支が11.91億NZドルの赤字と事前予想(7.00億NZドルの赤字)より弱い結果となり、NZドル/円が下落。本邦や欧州での株安も重石となり、80.90円まで一段安となった。
- ⑨ 30日、米財政協議の難航により一部米政府機関の閉鎖が現実味を帯びた事や、中国9月HSBC製造業PMIが市場予想を下回った事が嫌気され、NZドル/円は一時80.66円まで下落。ただ、その後は米長期金利の上昇を受けてドル/円が値を上げたのに連れて、NZドル/円は81.88円まで値を上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD / JPY

## 今月のポイント

9月のNZドル/円相場は76.06円～83.66円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約7.7%の大幅上昇（NZドル高・円安）となった。NZの来年の利上げ期待や中国経済の持ち直し観測、シリア情勢の懸念後退や米FOMCでの量的緩和縮小見送りを好感した株高を受けて約4か月ぶり高値を付けるも、その後は一部米政府機関の閉鎖懸念を受けたリスク回避ムードにより伸び悩んだ。

10月は、NZにて金融政策の発表がある。先月ウィーラーRBNZ総裁が「来年利上げが必要になる可能性が強いだらう」との見解を示しており、市場では来年前半の利上げが織り込まれつつある。今回も利上げ開始時期のヒントを探るべく、声明を注視する事となりそうだ。

リスク要因として、米国の財政問題が挙げられる。米上下院がねじれている現状では予算案や債務上限の引き上げは困難が予想される。米政府機関閉鎖が長期化する場合や、今月17日が期限とされる債務上限引き上げ交渉が難航して同国のデフォルト懸念が強まる場合、リスク回避の動きが強まって株価が下落し、結果NZドル/円相場を下押すことが予想される。ただし、年末の「財政の崖」回避時はリスクオンムードとなった事から、今回も合意に至れば同様の動きとなる事も考えられる。

その他、持ち直しの兆しが見られる中国経済の行方や、国内外の投資家の信任を得られるか注目されるアベノミクスの内容なども、NZドル/円相場を動かす手掛かり材料となろう。（川畑）

（予想レンジ：77.80～85.00円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

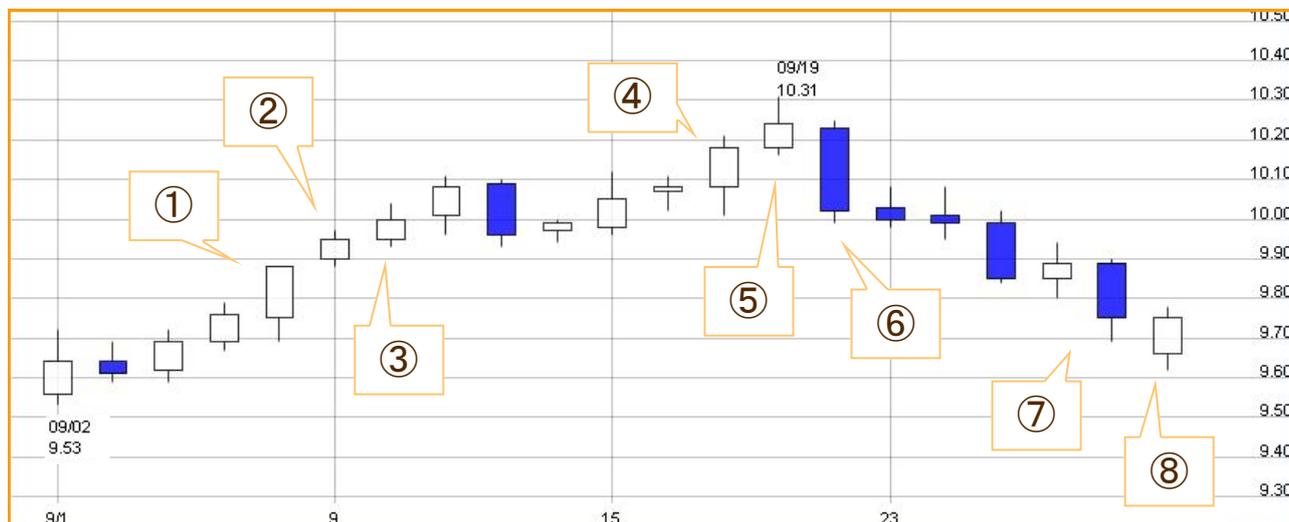
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(火)	日銀短観	10/12(土)	9月中国貿易収支
	9月中国製造業PMI	10/14(月)	9月中国消費者物価指数
	9月米ISM製造業景況指数	10/16(水)	第3四半期NZ消費者物価
10/2(水)	9月米ADP全国雇用者数		米地区連銀経済報告(ページブック)
10/3(木)	9月中国非製造業PMI	10/18(金)	第3四半期中国GDP
	9月米ISM非製造業景況指数		9月中国鉱工業生産
10/4(金)	日銀金融政策決定会合(3日～発表)	10/24(木)	9月NZ貿易収支
	9月米雇用統計		10月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
10/9(水)	FOMC議事録(9月17・18日)	10/30(水)	米FOMC政策金利発表
10/10(木)	9月豪雇用統計	10/31(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
10/11(金)	9月米小売売上高		9月NZ住宅建設許可
	10月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		日銀金融政策決定会合

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## ランド/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.56円	10.31円	9.53円	9.75円



- ① 6日、前週3日からストライキに入っていた南ア金属労働者の一部がストを終えて職場に戻った事を受け、ランドが買い戻された。さらに、プーチン露大統領の「シリアが外部から攻撃を受けた場合、ロシアはシリアを支援する」「ロシアは既に兵器の輸出でシリアを支援している」などの発言が伝わると、シリア情勢緊迫化への不安が強まってドル売りが優勢となり、米ドル/ランド相場が下落(＝ランド高)した事もあり、ランド/円は9.88円まで上昇した。
- ② 9日、前週7日に2020年五輪開催地が東京に決定した事を受け、本邦株高期待によりランド/円は上昇。その後、シリア情勢の懸念後退によりNYダウ平均株価が上昇すると、9.97円まで一段高となった。
- ③ 10日、南ア第2四半期経常赤字が対GDP(国内総生産)比で6.5%と前期(5.8%)から拡大した事を嫌気して下落。その後、9.93円まで一段安となった。
- ④ 18日、南ア8月消費者物価指数が前年比+6.4%(予想+6.4%、前回+6.3%)となり、2カ月連続で南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標の上限(年+6%)を突破したが、ランド/円相場の反応は薄かった。
- ⑤ 19日、前日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での予想外の量的緩和縮小見送りを受けてNYダウ平均株価が史上最高値を更新した流れを引き継いでアジアや欧州で株高が進んだ他、予想より強い米経済指標の発表が相次いだ事を受けてドル/円が上昇すると、ランド/円は10.31円まで一段高となった。なおSARBは政策金利の据え置き(5.00%)を決定。声明でインフレ率予想を2013年が前回と変わらず5.8%とするも、2014年が5.8%、15年は5.4%と従来(5.5%、5.2%)から引き上げた他、マーカス総裁が「インフレ圧力がさらに高まれば、弱い経済成長にもかかわらず利上げに踏み切る可能性がある」と発言したが、ランド/円相場の反応は限定的であった。
- ⑥ 20日、NYダウ平均株価の下げ幅拡大を嫌気して、ランド/円は軟調に推移。引け間際に一時9.99円まで値を下げた。
- ⑦ 27日、イタリアの政局混迷を受けて欧州株が軟調に推移した事が嫌気され、ランド/円は一時9.69円まで値を下げた。
- ⑧ 30日、米財政協議の難航により一部米政府機関の閉鎖が現実味を帯びた事や、伊政局不安を受けた欧州株安を嫌気して、ランド/円は一時9.62円まで下落。ただ、その後は米長期金利の上昇を受けてドル/円が値を上げたのに連れて、ランド/円は反発した。なお南ア8月貿易収支は191億ランドの赤字(予想:135億ランドの赤字)と伝えられるも、市場の反応は限定的であった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

9月のランド/円相場は9.53円～10.31円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.4%の上昇(ランド高・円安)となった。南ア国内でのストの一部回避や中国経済の持ち直し観測のほか、シリア情勢の懸念後退や米FOMCでの量的緩和縮小見送りを好感した株高を受け、ランド/円は約2か月ぶり高値を記録。ただ、その後は伊政局不安や、米政府機関の閉鎖懸念を受けたリスク回避ムードにより、上げ幅を縮小した。

10月のランド/円は、引き続き上値の重い展開が予想される。依然として同国のストの不安がぬぐい去れないほか、貿易収支は赤字傾向が定着するなど、買い材料は少ない。足下のインフレは2カ月連続でSARBのインフレ目標の上限を突破しており先月マーカスSARB総裁は一段のインフレ進行時には利上げで対処する可能性を示唆している。23日発表の9月消費者物価指数に注目したい。

南ア国外では、米国の財政問題が注目材料となりそうだ。上下院がねじれている現状では財政協議は困難が予想され、米政府機関閉鎖が長期化する場合や、今月17日が期限とされる債務上限引き上げ交渉が難航して同国のデフォルト懸念が強まる場合は、リスク回避の動きが強まって株価が下落し、結果ランド/円相場を下押し材料となりそうだ。ただし、昨年「財政の崖」回避時はリスクオンムードとなっており、交渉がまとまればランド/円相場を押し上げる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:8.80～10.30円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(火)	日銀短観	10/14(月)	9月中国消費者物価指数
	9月中国製造業PMI	10/16(水)	8月南ア実質小売売上高
	9月米ISM製造業景況指数	10/18(金)	第3四半期中国GDP
10/2(水)	9月米ADP全国雇用者数		9月中国鉱工業生産
10/3(木)	9月中国非製造業PMI	10/23(水)	9月南ア消費者物価指数
	9月米ISM非製造業景況指数	10/24(木)	10月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
10/4(金)	日銀金融政策決定会合(3日～発表)	10/28(月)	9月南ア生産者物価指数
	9月米雇用統計	10/29(火)	第3四半期南ア失業率
10/9(水)	FOMC議事録(9月17・18日)	10/30(水)	米FOMC政策金利発表
10/11(金)	9月米小売売上高	10/31(木)	日銀金融政策決定会合
	10月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		9月南ア貿易収支
10/12(土)	9月中国貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。